

2022年3月28日 モビリティ シンポジウム
「モビリティサービスの明日～その課題と可能性を多面的に考察する～」
宿利会長 開会挨拶

皆様こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。

本日は、年度末のご多忙の中、多くの皆様にこの会場とオンラインでご参加いただきまして、厚く御礼申し上げます。

本日のシンポジウムは、今後のモビリティサービスの在り方について、その課題と可能性を多面的に考察するというテーマで開催いたします。

当研究所では、3年前から、モビリティサービスの新しい展開について、継続的にセミナーやシンポジウムを開催するとともに、2020年7月からは、本日も登壇いただく石田東生筑波大学名誉教授を座長として「新しいモビリティサービスの実現方策検討委員会」を設置して、精力的に検討を進めてまいりました。今般その研究成果がまとまりましたので、本日はこれを基にシンポジウムを開催するものです。

本日は、まず、この委員会の研究成果について当研究所の安達研究員より報告するとともに、座長の石田先生からご講演をいただき、その後、石田先生をコーディネーターとして、国土交通省の河田課長、前橋市の細谷課長、十勝バスの野村社長、ネクスト・モビリティ株式会社の藤岡副社長にご登壇いただき、パネルディスカッションを行います。

さて、本題に入る前に、私から次の3点を強調しておきたいと思います。

まず第1は、今日我が国では、大都市、中山間地域を問わず、身近な公共交通サービス・モビリティサービスの欠如若しくは劣化が深刻な問題となっておりますが、この問題を改善し、解決を図ることは、住民の交通・移動の確保の問題にとどまらず、地域が抱える諸々の課題を解決し、脱炭素型の持続可能な地域社会を実現する上で大きな手掛かりとなり得るということです。

第2は、昨今のデジタル技術を活用したモビリティサービスの多様化・進化の動きや、これらの新しい技術と既存の交通サービスとの連携・応用の取

組みは、第1に申し上げたモビリティサービスの改善を通じた地域の課題解決の取組みを進める上で、力強い追い風になりつつあるということです。

第3は、新しい技術や新しいモビリティサービスを導入すること自体が目的化するような取組みは厳に避けなければならない、本当に重要なことは、地域が抱える課題の解決のためにはどのようなモビリティサービスがふさわしいかを見極め、そして、それをどのようにして持続可能な形で地域に定着させるかを、それぞれの地域の関係者が連携・協働して、しっかりと計画化し、実行に移すということです。

以上3点が、私が強調したい点ですが、加えてこの機会に皆様にお伝えしておきたいことがあります。

このモビリティの問題に関連しますが、本来地域の公共交通サービス提供の主役であるべき鉄軌道やバス・タクシーの多くが、長年にわたる経営難の中で交通サービスの質が低下し、利用者離れを招き、さらに今般のコロナ禍による需要減でサービスの維持自体が困難になりつつあります。

当研究所では、このような厳しい状況に直面する交通サービス産業の事業基盤を再構築し、住民・利用者が必要としている交通サービスを確実に提供できるように事業の刷新を図るための方策・仕組み作りについて、令和4年度から関係者のご協力をいただきながら研究調査に取り組む予定でありますことを、この機会に皆様にお伝えしておきたいと思っております。

最後になりますが、本日のシンポジウムが、ご参加いただきました多くの皆様方にとりまして真に有益なものとなりますことを期待して、私の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます。

以上